とっとり県美応援団 事務局だより

2021. 12. 15号

県博「対話型鑑賞研修会」に24人が参加!!

対話を介して様々に鑑賞を行う姿に感じ入りました

想像力膨らませて

県博で鳥短大生が進行役に

児童の絵画鑑賞サポート

児童に絵画の見どころを伝える学生（右端）

2025年春に予定されている鳥取県立美術館（倉吉市）の開館に備えて鳥取市の県立博物館で8日、対話型鑑賞の体験があった。「ファシリテーター（進行役）」となった鳥取短期大の学生が、児童たちを案内して美術の奥深さや魅力を伝えた。

県と県教委、鳥取短大、ボランティア団体でつくる「とっとり県美応援団」のファシリテーター育成を目的とした事業の一環で、鳥短大国際文化交流学科の1年生が取り組んでいる。過去3回の授業で県立博物館の学芸員からファシリテーターの役割や心構えを学んだ学生たちが、今回初めて実践した。

学生28人と鳥取市立美保小の6年生100人が16グループに分かれ、同館で開かれている絵画の企画展「東郷青児と前田寛治、ふたつの道」を鑑賞。女性の人物画やフランスの風景画、抽象画などを眺めながら、学生が「最初の印象は」「女性はどんな気持ちだと思う」「どんな植物が描かれているかな」などと問い掛け。児童たちは思い思いに意見を交わしながら、じっくりと絵と向き合い、想像力を膨らませていた。

学生の1人、泉侑花さん(19)は「感想を引き出し、否定しないことが大切だと思った。自分自身も作者の心情や生活の背景などを考え、美術鑑賞の奥深さを感じることができた」と話した。（松本妙子）

12月11日「新日本海新聞」掲載記事より

記事を囲む6枚の写真は、11月30日と12月2日に「バス招待事業」で県博を訪れた青谷小(4年生)と浦安小(5年生)の児童が対話型鑑賞活動を行う様子です。

後方支援チームより

お届けしているアンケートは、
12 月 31 日までに返信を!!